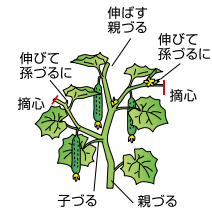


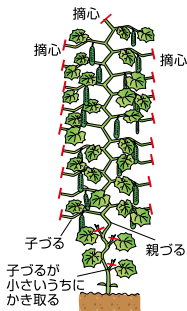
# あなたもチャレンジ! 家庭菜園



## キュウリを上手に育てるポイント



子づるは本葉2枚を残し、その先で摘心します。孫づるも同様に。



雌花の付き方  
親づる……所々に  
子づる……第1節に  
孫づる……第1節に  
※品種によって異なるものもあります。

良果をたくさん得るポイントは次の五つです。  
(1) 早い育ちに耐えるよう元肥、追肥を上手に適期に施す。  
(2) 葉が大きくて密になり込み合いやすいので、誘引・整枝・摘心を適切に、入念に行う。  
(3) 土の乾燥や荒風に弱いので、マルチ、灌水(かんすい)を心掛け、風をよける対策を講じる。  
(4) 病害虫にやられやすいので、発生を早く発見し、先手を打って防除に努める。  
(5) 草勢、着果に応じて収穫果の大きさを換え、利用の仕方を工夫して食卓をにぎわす。

5項目を順を追って説明すると、(1)の施肥については、元肥は、少なくとも植え付けの1カ月前までに、畝全面に堆肥、ピートモス、有機配合化成肥料をばらまき、18〜20cmの深さによく耕し込んでおきます。生育、吸収が早いので、最初から肥効が十分表れることが必要。また追肥も半月に1回程度、肥切れさせないことが大切です。  
(2)の誘引・整枝は、毎日見回って図のように芽かき、摘心し、支柱への縛りを入念に行いましょう。葉が込み過ぎた場合は、重なり葉や老化葉、病葉などの摘除も必要です。  
(3)は、根はもろくて乾燥に弱く、一方、葉は大きく蒸散が盛んなので、それに応じる水分補給と、地面蒸発防止のマルチ、敷きわらを行います。葉は強風に当たると損傷しやすいので、防風ネットや障壁のソルゴ植えなどが必要な所もあります。  
(4)べと病、炭疽(たんそ)病、アブラムシ、テントウムシダマシなどに要注意。これらは特定の株から発生しやすいので、発生葉の摘除、害虫除去でまず対応し、薬剤の早期散布を心掛けましょう。  
(5)収穫の大きさを100g内外は市場流通のこと。家庭菜園ではそれにこだわらず、大果(150〜180g、味はこれが一番)、もろきゅう(30〜40g、みそを付けて丸かじり)、花まる(雌花の開花中のもの、つま物にして食べる)、添え物(雄花の開花中のもの、料理の飾り物)など、自由度の高い収穫サイズを楽しみましょう。

## 農機具情報

### 軽量・ハイパワー・低振動な共立刈払機

#### Point ①



ジズライザー標準装備 カップ形状の樹皮性安定版「ジズライザー」は、地面に対してのすべりが非常に良く効率が上がります。耐摩耗性にも優れています。

21cc クラス



¥35,700 (税込)

#### Point ②



iスタート リコイル内部に設けたアシスト用スプリングにより、軽い力でゆっくりに引くだけで簡単に始動できます。



24cc クラス

¥39,900 (税込)

#### Point ③



ツインスロットル トリガーレバーを握りながらコントロールレバーを操作しエンジン回転を調節。トリガーレバーを放すとアイドルに戻ります。

26cc クラス



¥52,500 (税込)

ご相談やお問い合わせは、

能代農機センター 58-3949  
二ツ井・藤里農機センター 73-5022

## 生産履歴記帳運動

生産履歴記帳は、安全安心な農産物であるという裏付けのため、市場などの取引先から

「生産履歴用紙を見せて欲しい」と求められています。

現在では、**出荷があれば提出されていて当たり前!**

**必ず、出荷前に提出してください!!**

今年度も、農業生産工程管理 (GAP) に取り組みます。

23年度は、「JAあきた白神版GAP」を各部長に取り組みで頂きました。  
24年度は、「秋田県版GAP」を各部長・副部長に取り組みで頂きました。  
そして25年度は、「秋田県版GAP」を各部長役員に取り組みで頂きます。

農業生産工程管理 (GAP) とは?

残留農薬や異物混入などによる出荷停止や、農機事故などの農作業による事故を未然に防ぎ、地域環境を守るための対策として、産地(部会)でルールを決めて農作業を行い、各工程を記録・点検することで、より安全安心な農産物づくりを行うことです。

～産地として、消費者に認められ、支持されるように  
生産者みんなで頑張りましょう。～

安全安心な農産物づくり推進協議会